

平成20年度重点研究事業の事後評価について

平成22年7月
県立広島大学

本学では重点研究事業の成果などの状況を把握し、今後の研究の更なる発展に資するために、各研究事業の事後評価を行った。事後評価の結果は次のとおりである。

1 対象となる事業

平成20年度重点研究事業で採択した研究課題のうち、「科学研究費補助金獲得支援」の区分で採択した課題及び研究代表者が退職した課題を除く46件

【平成20年度重点研究事業の研究区分】

高等教育推進研究, 科学研究費補助金獲得支援, 戦略的プロジェクト研究, 地域課題解決研究, 学内ベンチャー育成等教員・学生共同研究, 学部プロジェクト研究

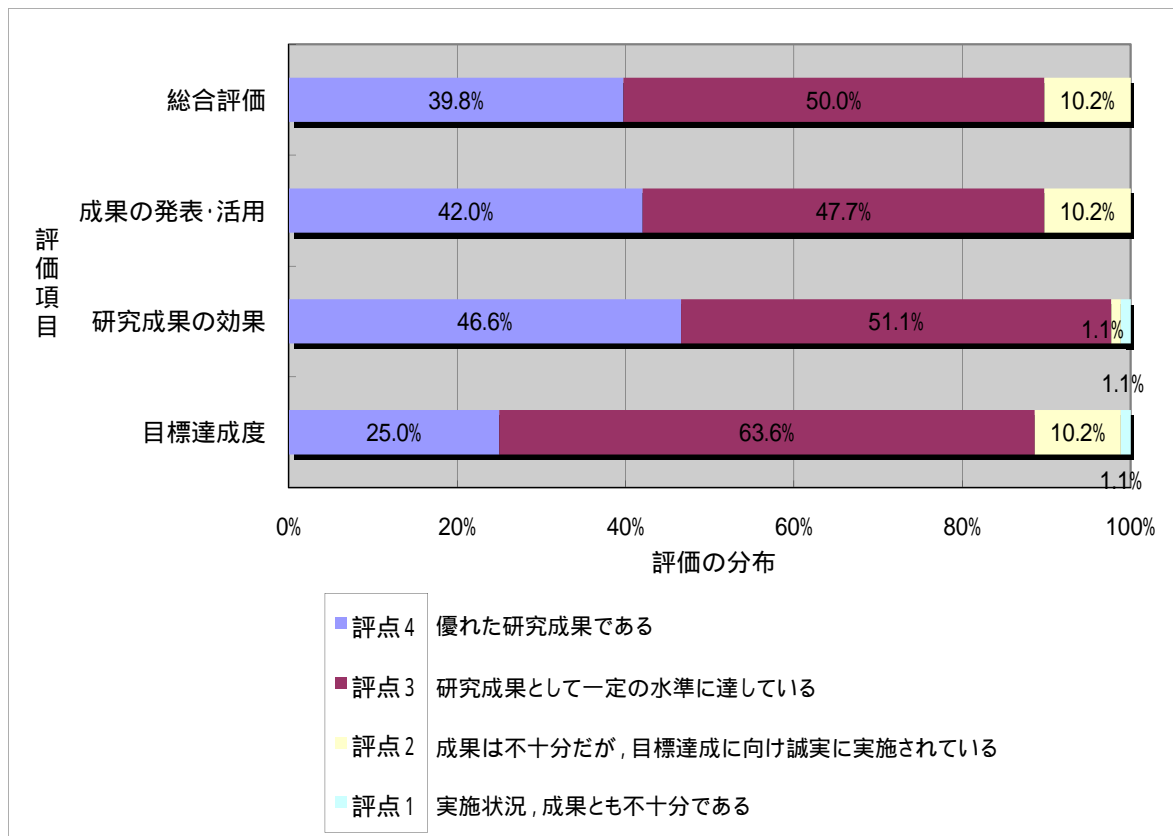
2 事後評価の方法:

外部有識者(1研究事業あたり2~1名)及び地域課題解決研究の課題提案者の書類審査による。
(評価件数延べ88件)

3 評価結果の概要:以下のとおり

(単位:件)

	目標達成度	研究成果の効果	成果の発表・活用	総合評価
評点4	22	41	37	35
評点3	56	45	42	44
評点2	9	1	9	9
評点1	1	1	0	0



4 学部プロジェクト研究について

【平成20年度学部プロジェクト研究総括】

学部プロジェクト研究は、重点研究事業の一枠で「教育研究の質向上や、学部の独自性を発揮できる研究の育成」に学部単位で取り組む研究として平成20年度から開始した。本年が初年度であり、開始時期も遅かったという条件はあるものの、4学部において学部長のリーダーシップの下で精力的に展開された。

それぞれの学部で掲げたテーマと手法、研究体制が、教育の質改善、多様な教員の研究から方向性を見出すとする試み、アピール度の高い研究課題を有効かつ効率的に進めようとするものなど様々であったため、事後評価に当たっては、評価基準の判断も多様とならざるを得なかった。

各学部のプロジェクト研究の事後評価には、評価できる点と今後の課題が集約されている。また、事後評価の過程において、今後このプロジェクト枠を継続するに当たっての運営上の課題も浮き彫りになってきている。

次年度事業においては、これらの運営上の課題を検討し、学部学科の教育実績と研究成果の向上、また、学部学科の特色を社会にアピールできる有効な事業としてのあり方も含めて検討を続けたい。

【学部別事後評価要約】

人間文化学部 「コミュニケーション能力の向上をめざす学部教育の改善」

国際文化学科と健康科学科といった性格の異なる文理2学科を擁する学部プロジェクトのため、焦点が絞られず、事業の積み重ねやアプローチの方法に難しさがあった。しかし、両学科および地域連携センターのスタッフを含めた構成で「学部教育の改善」という大きな課題にふさわしい研究体制を構築し、相互に連携をとりながら研究が進められたことは評価できる。

今回の研究事業を契機に、日頃、学部内で「授業観察」の機会を意図的に設けて、教員が互いに授業技術に関して情報交換できる雰囲気が醸成されることが期待される。

経営情報学部 「広島県のサービス産業の活性化に関する多面的研究」

それぞれの専門分野からの多面的なアプローチではあるが、学部プロジェクトとしての組織的な取り組みによる成果が見えにくいという面はあったものの、多くの教員が参加し、それぞれの視点で調査し、興味深いデータも報告する等、地域に根ざした多岐にわたる研究で広島県のサービス産業に関する興味深い視点を与えてくれるものとなっている。

また、研究成果の一部が、地元紙に報道されており、引き続きマスコミ報道、外部との連携などを進めるとともに、他学部(や他大学)との連携を図り、具体的でわかりやすい成果の公表を期待する。

生命環境学部 「がん形質発現機構をモデルとしたシグナル伝達病の戦略的生命科学研究」

学部生・院生も積極的に研究に参画させ、機器等の操作及び種々の実験手技をはじめ、技術と知識の伝授といった教育的な配慮があったことで、生命環境学部の研究・教育の質向上に貢献した研究体制となっており、研究自体も特許申請が可能な成果をあげていることが高く評価できる。

知的財産権の取得、研究シーズの育成、ベンチャー起業等の将来的発展性が伺え、今後の研究推移、成果に期待する。

保健福祉学部 「中枢神経障害者に効果的なりハビリテーション法の開発とその脳科学的根拠に関する研究」

学科をまたがった、また他機関の研究者も含めた共同研究の体制がとられており、関連教員の協力のもとで進められていることは研究・教育面での質向上において評価できる。学部プロジェクトの研究成果を今後の教育研究にどう活かしていくのかという次への展開が示されると、なお、良いものになったであろう。

今後、研究組織として有機的な連携・協働が進むことにより、学部の研究レベルの向上に資することを期待する。